



おおばの裕子の

# ゆうゆう通信

No.66

2020年8・9月号  
日本共産党  
市会議員  
(中原区)  
市政報告  
044-200-3360

大庭裕子市議会議員は、一般質問(6月25日)で(1)コロナ禍における介護施設の在り方について(2)女性の雇用対策について(3)中原区役所と周辺地域の環境整備(バリアフリー化・総合自治会館跡地)について(4)図書館の返却ボックスについて、質問しました。



## (1)「コロナ禍における介護施設の在り方について」

●介護施設から不安の声＝情報共有と支援の強化を求める＝

中原区内の介護事業所を訪問し「感染者が出たら、事業所を閉鎖しなければならぬ」「感染は時間の問題」と不安の声が寄せられ、感染者を出さないように必死に頑張っている実態を紹介。介護事業所で、職員がドラッグストアで並ぶことのないように、各区役所に備蓄を置いて、「区役所に行けば確保できる」と、安心できる体制をはかることを要望しました。

衛生用品については、訪問介護の場合、利用者からの飛沫を防止するN95マスクと部屋に入るのにフットカバーが必要でこれらを

加えるべきと求めました。

健康福祉局長は「感染発生後になおサービス継続が求められる事業所に対し、必要に応じた対応を図るとし、またフェ

イスシールドなど障害者就労支援作業所に受注するよう要望するなど「適切な対応をおこなっていく」との答弁がありました。

さらに、大庭議員は、「小さな事業所は情報が乏しい中で、不安を抱えながら自力で対応しなければならず、行政から事業者へ確実に情報が伝達され、近隣の事業所とも情報が共有できるよう求めました。

その他、介護人材の確保や介護従事者などへのPCR検査の実

施を要望しました。

## 川崎市議会 2020年第4回定例会 (6月1日～26日)

### (2)女性の雇用対策について

●コロナ禍のもと女性が雇用の調整弁に―街頭労働相談の実施で実態把握し、対策を

コロナ禍の下、総務省が5月末に公表した4月の労働力調査では、非正規労働者は97万人減少し、

そのうち女性は71万人に上ります。かわさきの男女共同参画20

20では、女性は20代後半から非正規雇用率の上昇が続き、40代後半で雇用者の約6割に達します。非正規労働者、とりわけ女性が雇用の調整弁になっていることがわかります。街頭での労働相談を緊急に実施してこうした現状把握のため実態調査を要望。その際、女性相談員を増やして、大きく表示などとして女性の労働相談窓口としての環境をつくることを求めました。

経済労働局長は、「街頭労働相談は適切な時期に検討する」と答弁しました。

### (3) 中原区役所と周辺地域の環境整備について

●市民の要望がいさされる総合自治会館跡地活用―コロナ禍のもと、事業者からも「落ち着いてから公募の開始を」の声が

総合自治会館跡地活用については、公募による民間事業者の募集開始に向け、2回目のサウンディング調査が行われて結果が公表されています。調査の参加は、12団体21事業者で建設・飲食・教育関係等とのことですが、事業者から「コロナ禍のもと時期を見直すべきでは」「周辺住民の理解は得られていないのか」等の声が出てくることについて質しました。

事業者からも、新型コロナウイルスの影響に懸念が出されていることから、「新しい生活様式」のもと、時間をかけて地域の人たちが災害機能として避難できる場所にと声をいかした計画になるよう、公有地の在り方を含め土地利用方針の見直しを改めて検討し、活用計画の決定を急がず、住民との合意形成を重ねて進めていくべき、と要望しました。

全体スケジュール(7月以降の募集開始、2020年度中・事業者決定、21年度中・整備工事等に着手、22年中・跡地等の運用開始)

●中原区役所と周辺地域の環境整備について―高齢者の要望にこたえ、区役所バス停横にベンチ設置

中原区役所前のバス停のベンチと上屋の設置について、昨年の6月議会で、交通局長に要望してい

ました。管理する東急バスに要請したとの回答はあったものの設置にはいたっていませんでした。区役所敷地と歩道が隣接しているため、区役所内のベンチを移動するよう要望し、すぐに改善が図られました。



区役所内のバリアフリーについては、長椅子の高さとトイレの扉の改善を求めました。1階の待合スペースの長椅子は、他の階の待合スペースも、特に高齢障害者の者などが座りやすい高さの長椅子にするよう要望。中原区長からは、「利用実態等を考慮し、対応していく」、また、トイレの扉を引き戸にすることに對しては、「先進事例を参考にしながら検討していく」との答弁がありました。



1階の高さのある長椅子

### (4) 図書館の返却ボックスについて

●武蔵新城駅など駅構内に設置をを求める

本市は、駅や公共施設で返却ができる場所として5か所に「図書返却ボックス」を設置しています。その一つが、昨年7月にJR武蔵中原駅です。各返却ボックスの年

### 行政へ申入れ＝新型コロナウイルス感染症対策要望書（第5次）を市長に提出



私たち党市議団は7月30日に、福田市長に対し新型コロナウイルス感染症対策の申し入れ(第5次)を行い、伊藤弘副市長が応対しました。懇談では、4月のピーク時に迫る勢いの中、PCR検査を早急に拡大することなどを中心に要望。国から川崎市への臨時交付金68億円について、医療機関への支援や中小企業、個人事業主への経営支援などにあてることが切実に求められていると指摘しました。市民に交付金の使い道を示すべきと早急に臨時議会を開いて議論すべきと要望しました。

### 地域の要望が実現しました

◎上小田中2丁目の側溝の蓋かけ・ぬかるむ公道にシートを張ってもらいました。

(改修前)



(改修後)



◎東日本台風による排水樋管周辺地域に関する住民説明会(7月15日・20日)に参加

◎山王地域の排水樋管ゲート・排水ポンプ車の運用の公開訓練を見学しました。(8月6日)

人の配置体制など、訓練を重ねていくことが大事であると感じました。

写真は宮内排水樋門で、当面の対策として、排水ゲートの開閉電動化とフラップゲート(内外の水位差に応じて自動で開閉する)設置などが図られました。



間の返却数は、高津市民館、鷺沼行政・登戸行政サービスコーナー、有馬・野川生涯学習支援施設は、3万から5万7千冊余で、武蔵中原駅構内は、9か月で約3万冊の利用があります。返却ボックスの効果については、市民文化局長は、「利用者への迅速な貸出につなげるなど、図書館サービスの向上に努めている」との答弁。  
大庭議員は、各区の図書館が最寄りの駅から離れていることや一定の規模の乗降客数があるところなど、武蔵新城駅や鹿島田駅に設置を要望。検討するとの答弁がありました。(7月末に鹿島田駅構内に設置が決まりました)

【写真・昨年7月に武蔵中原駅に設置】



### おおば裕子さんに期待します

#### 【森とせせらぎまつり・灯籠流し】

私たちの地域には、江川せせらぎ周辺で地域の人たちが民主的に始めた2つの行事があります。それは森とせせらぎまつりと灯籠流しです。

行事を始めて10年以上たちますが、大庭裕子さんは当初から実行委員として活躍されて行事には欠かせないメンバーのひとりです。江川せせらぎの悪臭や藻の改善策など、行政に働きかけをしています。今年は新型コロナの影響で中止と決まりましたが、来年再開できることと大庭裕子さんにますます活躍されることを期待します。

下小田中4丁目在住 向江卓郎



昨年の様子

#### ◎一水害なくし対策を-

#### 京浜河川事務所を訪問(7月13日)

昨年の台風19号により多摩川沿いで浸水被害が多数発生した問題で、3月の訪問に引き続き、治水対策について国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所を訪ねました。

平瀬川(高津区)と三沢川(多摩区)の合流地点の堆積土砂は撤去したとの説明。2024年度までの多摩川緊急プロジェクトで可動掘削、堰対策、堤防整備などの実施で40cmの水位低下を見込むとのことでした。しかし、近年の豪雨災害の現状からいっても緊急性をもって対応してもらいたいと要望をしました。



土・日曜日を中心に、住所がわかるところは訪ねたり、電話でお話をさせてもらっています。直接、お話しをするごみなさん、コロナの話からどんどん発展して安倍政権への怒りにつながっていくというのも特徴です。コロナ禍のもので、政治のことが話しやすくなっているのでしょうか。8月も引き続き、地域をまわります。よろしくお願ひします。

「この先、コロナも心配だが、生活の方が心配」と、今後の暮らしについて不安がリアルに伝わる内容です。貴重なご意見ありがとうございます。寄せていただいた声は、必ず川崎市に届けていきます

5月末から開始した市議団のコロナ禍の下でのアンケートに3701通(7/31現在)の返信が寄せられました。今回のアンケートでは、20代30代の方々の声が強く寄せられ、さらに連絡先を明記してくださいということにびっくりしています。

《アンケートにご協力

ありがとうございます》



おおば裕子と